

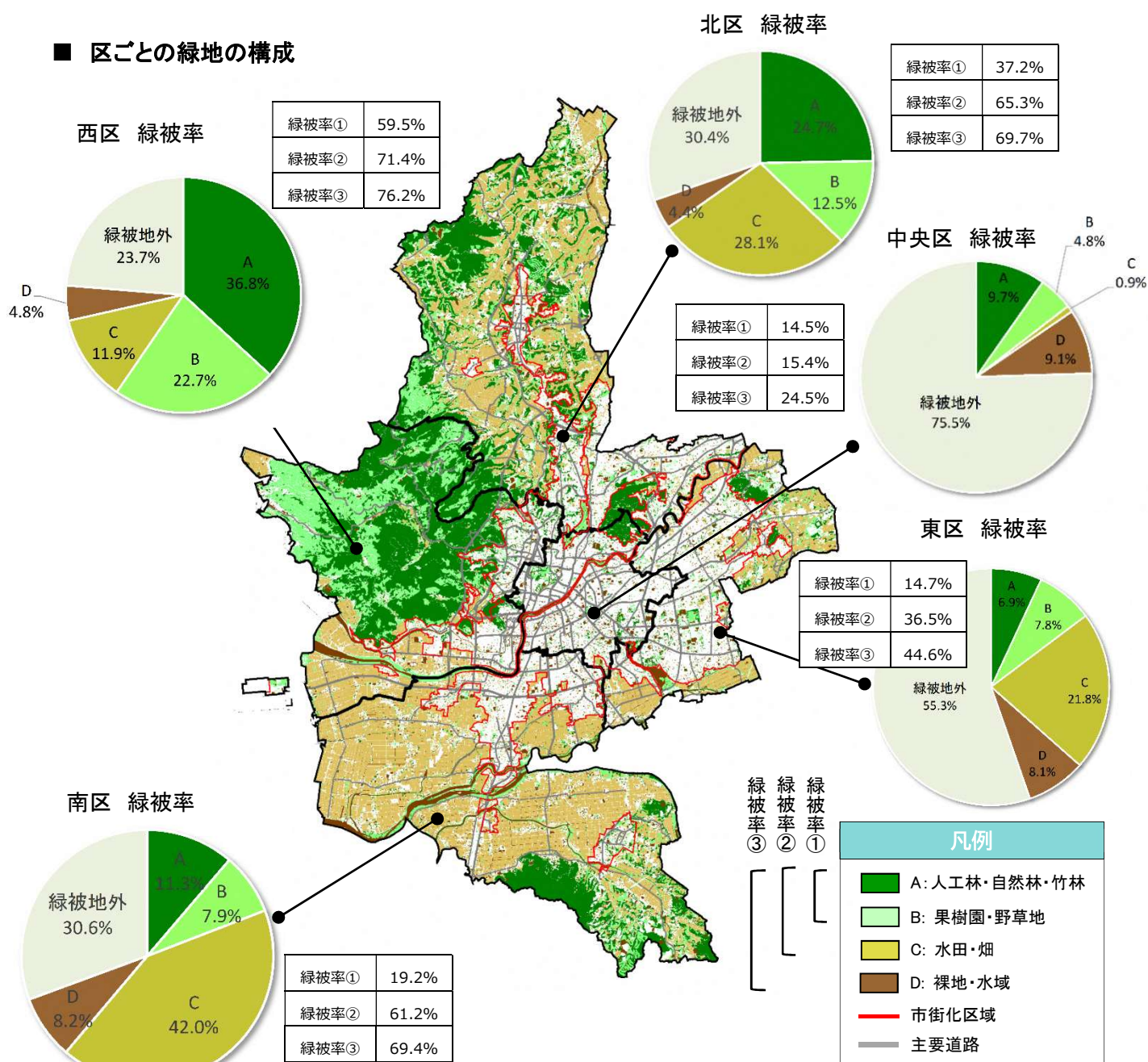
第 6 章

区ごとの緑化方針

本市の緑の現状を、区ごとに円グラフで示しています。西区、北区、南区、東区、中央区の順に緑の割合が高くなっています。区ごとに緑の特性及び緑被率が異なるため、それぞれの区の特성에応じた緑づくりやその保全が必要です。

区ごとの緑化方針では、中央区、東区、西区、南区、北区の5つそれぞれに、緑の特性・役割や課題、緑の目標と方針を定めました。方針は、『豊かな自然の保全・共生【緑を守る】』、『緑あふれる都市づくりに向けた緑の創出【緑を育む】』、『さまざまな機能を持つ緑の魅力づくり【緑を活かす】』、『緑を支える人づくり・組織づくり【緑を繋げる】』の4つの基本方針に応じて分類を定めます。

■ 区ごとの緑地の構成



資料：平成 30 年度緑被率調査

注) 緑被率調査の区分と実際の土地利用形態は一致しない場合があります

1. 中央区

■中央区の緑の概況

- 中央区は、熊本城や上通、下通アーケードなどの代表的な観光地や商業地があるほか、立田山をはじめ、白川や江津湖周辺など都市に恩恵を与える貴重な緑があり、日常的に多くの市民が利用する地域です。また、人口密度が高く、土地の高度利用や都市機能の集積が図られており、他の区と比較すると緑が少ない状況となっています。
- 区域内には、緑化重点地区である中心市街地、地域拠点（子飼地区、長嶺地区、水前寺・九品寺地区、平成・南熊本周辺地区、上熊本地区）、中心市街地と地域拠点を結ぶ公共交通軸（国道3号・266号、主要地方道28号、県道145号・303号、産業道路、国道道路）があります。
- 立田山風致地区、水前寺風致地区、江津湖風致地区が指定されており、都市における良好な自然的景観の維持を図っています。
- 熊本城周辺、水前寺周辺、江津湖周辺、電車通沿線地域、白川沿岸地域は景観計画の重点地域に指定されており、建築物の高さなど眺望に配慮した景観形成基準が定められています。



立田山



水前寺成趣園

■中央区の緑の課題

- 中央区の緑被率①【(自然林+人工林+竹林+果樹園+野草地)÷対象区域面積】は14.6%（市全体32.8%）であることから、緑被率の向上が必要です。特に、緑化重点地区である中心市街地、地域拠点において緑化を推進するとともに、中心市街地と地域拠点を結ぶ公共交通軸において、緑化推進や緑の適切な維持管理が必要です。
- 熊本城、立田山、江津湖、白川等の緑や身近にある公園、河川、社寺林などの緑は、生物の生息地ともなっており、緑の維持・保全・活用を図る必要があります。
- 中心市街地の再開発等により活性化が図られているなか、緑を活かした賑わいのある空間づくりをより一層推進する必要があります。また、ヒートアイランド現象による都市部の気温上昇を緩和する緑の保全と緑化推進が特に必要です。

市民アンケート

- 居住地周辺の緑の量については「緑の量が少ない」という意見、市街地の緑の将来像については「緑を増やしたほうがよい」という意見、熊本市の緑は「10年前と比較して減った」という意見が多くあり、市街地の緑化推進や居住地周辺の民有地緑化等が必要です。
- 居住地周辺の緑を感じる場所として「公園」「街路樹」「河川」という意見、市街地で緑に関する施策を重点的に実施すべき場所として「河川」や「商業施設やオフィス」という意見が多くあり、これらの場所で官民連携した緑化推進や緑の適切な維持管理が必要です。

■中央区の緑化方針

風格のある熊本城、市街地の貴重な緑である立田山、中心市街地の新たな緑、白川や坪井川等の水辺にある緑などを活かしながら、賑わいと活力にあふれ品格のある「森の都」の実現に向けた緑のまちづくりを推進します。

●豊かな自然の保全・共生【緑を守る】

- 立田山等における、森林の有する多面的機能を高度に発揮できる森林管理の推進
- 立田山等における放置竹林対策の取組の拡大
- 白川等の自然環境に配慮した水辺空間形成の促進
- 水前寺江津湖公園の外来種対策等の実施や絶滅危惧種の保全

【各区共通】

- 地下水かん養能力の高い森林の保全
- 絶滅危惧種等の貴重な在来種を含めた生物多様性の保全と外来種対策

●緑あふれる都市づくりに向けた緑の創出【緑を育む】

- 緑化重点地区である中心市街地、地域拠点（子飼地区、水前寺・九品寺地区、平成・南熊本周辺地区、上熊本地区）、中心市街地と地域拠点を結ぶ公共交通軸（国道3号・266号、主要地方道28号、県道145号・303号、産業道路、国体道路）の緑化推進（壁面緑化・屋上緑化・多様な主体との連携による緑化等）や緑の維持管理（街路樹・植栽樹・公園の維持管理等）による地域の魅力向上
- 熊本城周辺、水前寺周辺、江津湖周辺の緑豊かな景観形成
- プランター等を活用したアーケード内緑化推進
- シンボルプロムナード・花畑広場の整備や、熊本駅前周辺の緑化推進

【各区共通】

- 宅地などの民有地・商業地・工業地におけるまちぐるみの緑化推進
- 学校、社会体育施設などの公共施設における緑化充実

●さまざまな機能を持つ緑の魅力づくり【緑を活かす】

- 立田山の遊歩道等の整備、健康アプリ等 ICT の活用
- 水前寺江津湖公園の遊歩道等の整備などの既存の緑の魅力・価値を向上する取組
- 時代や市民ニーズに対応した住区基幹公園、都市基幹公園（熊本城公園、水前寺運動公園等）、歴史公園（北岡自然公園）、緑地（立田山緑地、坪井川緑地等）の維持管理や活用
- 白川河川敷公園のイベント開催等の活用
- 市民が農業とふれあう場を増やすための市民農園の利用促進

●緑を支える人づくり・組織づくり【緑を繋げる】

- 立田山等の森林における環境教育の場としての活用
- 立田山や江津湖における市民参加の自然観察会の開催の推進
- 中心市街地におけるスポンサー花壇制度・パートナー花壇制度の活用促進
- デコレーション花壇コンテストの実施

【各区共通】

- 地域のボランティアや PTA 等と連携した学校緑化
- 公園愛護会の活動促進
- 公共施設愛護団体（道路ふれあい美化ボランティア、河川ふれあい美化ボランティア等）の育成や街路樹愛護会の設置促進
- 森林ボランティアの育成
- 緑化活動を通じた健康づくりの実施



熊本城

中央区の
緑化方針図

■熊本城周辺、水前寺周辺、
江津湖周辺の緑豊かな景観形成

■白川等の自然環境に配慮した水辺空間形成の促進

■立田山等における多面的機能を高度に発揮できる
森林管理の推進、放置竹林対策の拡大、
遊歩道等の整備、健康アプリ等 ICT の活用

■市民が農業にふれあい、理解を深める
場となる市民農園等の利用促進

■中心市街地、地域拠点(子飼地区、
水前寺・九品寺、平成・南熊本
周辺地区、上熊本地区)、
中心市街地と地域拠点を結ぶ
公共交通軸の緑化推進や緑の
維持管理による地域の魅力向上

■住区基幹公園、都市基幹公園
(熊本城公園、水前寺運動公園等)
、歴史公園(北岡自然公園)、
緑地(立田山緑地・坪井川緑地等)
の維持管理や活用

■水前寺江津湖公園の外来種対策等
の実施や絶滅危惧種の保全、遊歩道等の整備などの
既存の緑の魅力・価値を向上する取組

緑化重点地区

	中心市街地の緑		地域拠点の緑
	中心市街地と地域拠点を結ぶ公共交通軸の緑		

特色や地形を活かした4つのゾーン

	賑わいと潤いのある中心市街地の緑創出ゾーン
	豊かな緑を守り伝える自然環境保全・共生ゾーン
	花と緑で彩る市街地の緑創出ゾーン
	広大な田園を守り活かす田園共生ゾーン

法・条例による緑の保全

	保安林		環境保護地区
	県立自然公園		天然記念物
	風致地区		景観計画の重点地域

協定による緑の保全

	緑地協定
--	------

都市公園や河川等

	都市公園(都市緑地)
	河川沿いの緑化及び緑地保全

骨格となる交通網

	高速道路		JR		市電
	新幹線		熊本電鉄		主要道路

2. 東区

■東区の緑の概況

- 東区は、住宅地が多く最も人口が多い区です。
- 区域内には、緑化重点地区である地域拠点（長嶺地区、健軍地区）、中心市街地と地域拠点を結ぶ公共交通軸（国道 266 号、主要地方道 28 号、県道 145 号、産業道路・国体道路）があります。
- 託麻三山（神園山、小山山緑地、戸島山緑地）の森林や緑地、江津湖周辺の水辺、東部の田園等が位置し、多様な生物の生息地となっています。
- 区の北東側に位置する託麻台地は、地下水かん養域となっています。
- 西側は市街化が進み、市街地整備により良好な居住環境が形成されている一方で、比較的緑が少ない状況となっています。
- 江津湖風致地区が指定されており、都市における良好な自然的景観の維持を図っています。
- 江津湖周辺は景観計画の重点地域に指定されており、建築物の高さなど眺望に配慮した景観形成基準が定められています。



神園山



香りの森

■東区の緑の課題

- 東区の緑被率①【(自然林+人工林+竹林+果樹園+野草地)÷対象区域面積】は 14.8%（市全体：32.8%）、緑被率②【(自然林+人工林+竹林+果樹園+野草地+水田+畑)÷対象区域面積】は 36.5%（市全体：58.6%）となっています。比較的緑被率が低いことから、緑被率の向上が必要です。特に、緑化重点地区である地域拠点において緑化を推進するとともに、中心市街地と地域拠点を結ぶ公共交通軸において、緑化推進や緑の適切な維持管理が必要です。
- 託麻三山、水前寺江津湖公園、東部の田園等の緑や身近な公園、河川、社寺林などの緑は生物の生息地となっており、緑の維持・保全・活用を図る必要があります。
- 市街化の進行による地下水かん養域の減少を抑えるため、託麻台地における緑の維持・保全が必要となっています。
- 託麻三山等においては、手入れ不足による竹林の拡大等も一部見受けられ、景観や環境の悪化へと繋がることから、適切な維持管理が必要となっています。

市民アンケート

- 居住地周辺の緑の量については「緑の量が少ない」という意見、熊本市の緑は「10年前と比較して減った」という意見が多くあり、居住地周辺の民有地緑化をはじめとする緑化推進や、緑の活用などが必要です。
- 居住地周辺の緑を感じる場所は「公園」・「街路樹」という意見、緑を重点的に保全していくべき場所として、「水前寺・江津湖周辺や八景水谷等の水辺の緑の保全」という意見が多くなっています。
- 多様な生物の生息環境を確保するための取組として、「外来生物による生態系への影響の防止」という意見が多く、江津湖などの外来種対策が今後も必要です。

■東区の緑化方針

豊富な湧水に満ちた江津湖の緑、託麻三山の緑、加勢川等の水辺の緑などを活かしながら、自然が豊かで笑顔あふれる「森の都」の実現に向けた緑のまちづくりを推進します。

●豊かな自然の保全・共生【緑を守る】

- 託麻三山における、森林の有する多面的機能を高度に発揮できる森林管理の推進
- 託麻三山における放置竹林対策の取組の拡大
- 加勢川の自然環境に配慮した水辺空間形成の促進、藻器堀川や健軍川等の自然環境に配慮した水辺空間形成の推進
- 水前寺江津湖公園の外来種対策等の実施や絶滅危惧種の保全
- 健軍神社、沼山津神社等の社寺林の保全
- 江津湖風致地区の緑の保全及び緑化の啓発
- 四季折々の花々や樹木のある香りの森の植栽整備と維持管理
- 熊本市景観計画や熊本農業振興地域整備計画に基づいた田園の保全

【各区共通】

- 地下水かん養能力の高い森林の保全
- 絶滅危惧種等の貴重な在来種を含めた生物多様性の保全と外来種対策

●緑あふれる都市づくりに向けた緑の創出【緑を育む】

- 緑化重点地区である地域拠点（長嶺地区、健軍地区）、中心市街地と地域拠点を結ぶ公共交通軸（国道 266 号、主要地方道 28 号、県道 145 号、産業道路・国体道路）の緑化推進（壁面緑化・屋上緑化・多様な主体との連携による緑化等）や緑の維持管理（街路樹・植栽柵・公園の維持管理等）による地域の魅力向上
- 江津湖周辺の緑豊かな景観形成
- プランター等を活用したアーケード内緑化推進

【各区共通】

- 宅地などの民有地・商業地・工業地におけるまちぐるみの緑化推進
- 学校、社会体育施設などの公共施設における緑化充実

●さまざまな機能を持つ緑の魅力づくり【緑を活かす】

- 託麻三山（神園山、小山山緑地、戸島山緑地）の遊歩道等の整備
- 水前寺江津湖公園の遊歩道等の整備などの既存の緑の魅力・価値を向上する取組、動植物園の園内改修
- 市民ニーズに対応した住区基幹公園、歴史公園（小楠公園）、緑地等の維持管理や活用

●緑を支える人づくり・組織づくり【緑を繋げる】

- 託麻三山（神園山、小山山緑地、戸島山緑地）等の森林における環境教育の場としての活用
- 江津湖における市民参加の自然観察会の開催の推進
- 熊本市動植物園「緑の相談所」の利用促進

【各区共通】

- 地域のボランティアや PTA 等と連携した学校緑化
- 公園愛護会の活動促進
- 公共施設愛護団体（道路ふれあい美化ボランティア、河川ふれあい美化ボランティア等）の育成や街路樹愛護会の設置促進
- 森林ボランティアの育成
- 緑化活動を通じた健康づくりの実施



水前寺江津湖公園

東区の 緑化方針図

■地域拠点(長嶺地区、健軍地区)、
中心市街地と地域拠点を結ぶ
公共交通軸の緑化推進や緑の
維持管理による地域の魅力向上

■住区基幹公園・歴史公園(小
緑地等の維持管理や活用

■藻器堀川や健軍川等の自然環境に配慮した
水辺空間形成の推進

■健軍神社、沼山津神社等の社寺林の保全

■江津湖周辺の緑豊かな景観形成

■水前寺江津湖公園の外来種対策等の実施や
絶滅危惧種の保全、遊歩道等の整備などの
既存の緑の魅力・価値を向上する取組、
動植物園の園内改修

■加勢川の自
の促進

